

## 30年10月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 10月1日～ 30年10月10日

## 2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
10月分の回答企業数は6社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		30/10月	11月	12月
入荷動向	スギ	△ 7.1	0.0	△ 8.3
	ヒノキ	0.0	△ 10.0	0.0
	カラマツ	△ 8.3	10.0	0.0
	トドマツ	16.7	0.0	0.0
消費動向	スギ	△ 7.1	0.0	△ 8.3
	ヒノキ	0.0	0.0	△ 10.0
	カラマツ	8.3	20.0	10.0
	トドマツ	0.0	25.0	50.0
在庫動向	スギ	△ 7.1	△ 8.3	△ 8.3
	ヒノキ	△ 10.0	△ 10.0	△ 10.0
	カラマツ	16.7	10.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ国産原木の入荷動向は10月減少から11月は横ばい、12月は再び減少に。ヒノキは10月の横ばいから11月は減少、12月は再び横ばいに。カラマツは10月の減少から11月は増加、12月は横ばいに。トドマツは10月の増加から11月、12月は横ばいに。

・スギ国産原木の消費動向は10月の減少から11月は横ばい、12月は再び減少に。ヒノキは10月、11月の横ばいから12月は減少に。カラマツは3カ月連続増加。トドマツは10月の横ばいから11月、12月は増加に。

・スギ、ヒノキ国産原木の在庫動向は3カ月連続減少。カラマツは10月、11月の増加から12月は横ばいに。トドマツは3カ月連続横ばい推移。

## (2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/10月	11月	12月
スギ	0.0	10.0	0.0
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	10.0	12.5	12.5
米マツ	0.0	0.0	50.0
北洋カラマツ	0.0	25.0	25.0
その他	-	-	-

・合板用原木の購入価格動向はスギ、ヒノキ、米マツとも保合。

・カラマツ、北洋カラマツは強含み。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

・入荷が遅れ気味で、スギ、カラマツの原木流通在庫は少ない。予定の生産量分消費。在庫は入荷が遅れている分減少。  
・依然としてカラマツは入荷難。トドマツも集荷に苦勞。消費は「働き方改革」で自然減。  
・造林請負事業も終わり、スギ・トドマツは丸太生産量が増えてきている。工場の消費は変わらないが、今後フロー-台板の比率増加が見込まれるのでトドマツの消費は増える。スギの入荷増に伴って在庫量も安定していく見込み。  
・入荷動向は横ばいで変化なし。カラマツを主体に消費。在庫動向は冬場対策用として少量増加。  
・スギ、ヒノキ丸太は入荷計画数量を満たせず激減。県内安定供給願う。スギ、ヒノキ丸太に変わりカラマツの消費増加。冬期対策でカラマツ在庫増加。  
・原木消費分は入荷していきたい。消費は横ばいだが12月は減少する。在庫は最低でも横ばいでキープしたい。

## (原木価格)

・スギ高値ではりついている（ジリ高感有り）。カラマツは他社との競合により多少上昇。  
・カラマツ、トドマツ価格上昇。  
・カラマツ、北洋カラマツともに高値で推移。  
・安定供給もなく購入価格横ばい。  
・原木購入価格は横ばいをキープ。

## 30年10月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		30/10月	11月	12月
生産動向	構造用(9mm)	30.0	0.0	△ 12.5
	〃 (12mm)	0.0	0.0	△ 8.3
	〃 (15mm)	7.1	0.0	0.0
	〃 (24mm)	△ 7.1	△ 8.3	0.0
	〃 (28mm)	7.1	8.3	△ 8.3
出荷動向	構造用(9mm)	30.0	12.5	12.5
	〃 (12mm)	7.1	8.3	0.0
	〃 (15mm)	14.3	8.3	0.0
	〃 (24mm)	14.3	0.0	0.0
	〃 (28mm)	28.6	0.0	△ 8.3
在庫動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	7.1	0.0	0.0
	〃 (15mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (24mm)	14.3	8.3	0.0
	〃 (28mm)	7.1	0.0	0.0

・合板工場の生産動向は9mmは10月の増加から11月は横ばい、12月は減少に。12mmは10月、11月の横ばいから12月は減少に。15mmは10月の増加から11月、12月は横ばいに。24mmは10月、11月の減少から12月は横ばいに。28mmは10月、11月の増加から12月は減少に。

・出荷動向は9mmは3カ月連続増加。12mm、15mmは10月、11月の増加から12月は横ばいに。24mmは10月の増加から11月、12月は横ばいに。28mmは10月の増加から11月は横ばい、12月減少に。

・在庫動向は9、15mmは3カ月連続横ばい推移。12mm、28mmは10月の増加から11月、12月は横ばいに。24mmは9月、10月の増加から11月は横ばいに。

## (2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/10月	11月	12月
構造用(9mm)	0.0	16.7	16.7
〃 (12mm)	0.0	0.0	10.0
〃 (15mm)	0.0	0.0	0.0
〃 (24mm)	0.0	0.0	10.0
〃 (28mm)	0.0	10.0	10.0

・出荷価格動向は総じてやや強含み。

## モニターからのコメント

## (構造用合板の荷動き)

- ・9mmは他メーカー生産少なく、客先からの要望により増やす。12mmは荷動き悪く生産減らす。15mm、24mm、28mmはほぼ横ばい。12mm減らした分構造用合板の生産を増やした。在庫は12mm以外は生産分出荷で横ばい。
- ・「働き方改革」により全体的に生産減。非構造用は生産アップ。出荷は今月から動き出す。プレカット工場への出荷多し。
- ・特に厚物(24mm以上)の荷動きが落ちているので生産比率を下げています。厚物の出荷が落ちてきている。厚物を中心に在庫量は増えていく見込み。
- ・少量生産につき各品目とも変化なし。
- ・出荷低迷により従来より生産5%減。当月年次検査を含む。出荷5~10%減少。在庫は10%増。
- ・稼働日数による生産となる。出荷動向は、気候条件が良くなり着工が進み、流通から先の出荷が流れ始めると一気に動き出すのではないかと。在庫は、先月トラック不足あり微増、低水準のまま推移す

## (構造用合板の価格)

- ・メーカー出値は変えてはいないが流通での安値が出ており、その値段に引っ張られて来ている。
- ・今後、丸太・接着剤、運賃等の上昇により、先々価格上昇。
- ・各品目とも変化なし。
- ・ほぼ横ばい。
- ・価格は横ばい。原木価格、他のコスト次第では価格見直しもあり得る。